

第 46 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 会長挨拶

本日、ここに、第 46 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会を開催するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、ご列席の皆様方におかれましては、ご多用のところ、全国各地からご参集いただき、このように盛大に本大会を開催できましたことを、厚く御礼申し上げます。

また、本大会には、公務ご多忙のところ、厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課長 田中正晴 様、国土交通省関東運輸局次長 長谷部正道 様、警察庁関東管区警察局広域調整部長 駒走博志 様、そして、開催地であります栃木県の副知事 麻生利正 様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜りましたことを誠に光栄に存じ、厚く御礼申し上げます。

さらに、本日は、労働災害の防止に顕著な功績をあげられました事業場、団体、個人の方々等への表彰を行うこととしております。受賞されます皆様方には、これまでのたゆまぬご努力、ご精進に対し深く敬意を表しますとともに、今後の益々のご活躍を祈念申し上げます。

さて、当協会では、近年における陸運業の死亡災害の大幅減少を受けて本年度から改定された「陸上貨物運送事業労働災害防止計画」に基づき、平成 24 年までに平成 19 年と比して労働災害の死亡者数を半減させ、また、死傷者数を 15%以上減少させること、過重労働による健康障害を防止することなどの目標を達成するため、残り 3 年間の計画期間中に、なお一層積極的な安全衛生活動を展開していくこととしております。

陸上貨物運送事業における労働災害の発生状況をみますと、死亡者数については、平成 20 年には 148 人と 150 人を下回り、平成 21 年には 122 人と過去最少となりましたが、本年に入ってから、交通労働災害を中心に死亡者数が急増し、10 月 7 日現在の速報値で前年比 40.5%の大幅増加となっており、憂慮すべき状況にあります。

一方、死傷者数は、長期的には減少傾向にあり、平成 20 年には前年比 9.4%増加の 14,691 人となったものの、平成 21 年には 12,794 人と初めて 1 万 3 千人を下回り、本年に入ってから

前年並みの水準で推移しております。

このように、本年に入ってから死亡災害が急増していることを受け、死亡災害の増加傾向に歯止めをかけ、さらに減少傾向に転じさせるため、私から各都道府県支部長の皆様に対して、これまで3度にわたって、陸運業における労働災害防止対策の徹底についての「緊急要請」を行ったところ です。

このような要請を踏まえ、各支部及び会員事業場の皆様におかれては、すでに労働災害防止の強化を図っていただいているところですが、さらに、これから年末・年始を迎え、死亡・重大災害が多発することが懸念されることから、今後関係行政機関、関係団体のご指導、ご協力を得ながら、本部、支部、会員事業場が一体となって、「年末・年始労働災害防止強調運動」を強力に推進していくこととしております。

陸運業界は、引き続き厳しい経営環境のもとにあります。国内貨物輸送量の9割以上を担う陸運業が、物流の中核として我が国の経済活動と国民生活を支えているという機能を、今後とも果たしていく上で、そこで働く人々の安全と健康を確保していくことは、必要不可欠であります。

本日、ご参集された皆様方におかれまして、本大会を契機に、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願い申し上げます。

最後に、本大会開催に大変ご尽力をいただきました栃木県支部をはじめ関係者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍、そして陸運業界の発展を心から祈念し、私の挨拶といたします。

平成 22 年 11 月 4 日

陸上貨物運送事業労働災害防止協会会長

岡部正彦